

年、報逆——幸内野合戦、滅びたり——山名隆興守
の舎弟岡上総介八代の高孫より然るに上総介義教
の將軍は中興中の内門大宮より討死し、後子孫西
國に陰没し、豊前國の民間に交り數世を送る。一叫、
至て農業休棄して岡國老山の客侶となる。天性豪
傑ありて、兵術を好み九州四山の街に無類の豪を
退く。出雲國馬田の城主は、本流の義教、苗胤、尼子
晴久は、上尼子よりはくして鉄砲の師範なり。其頃晴久
中玉十六王の権柄と列れり。然るに録念三氏將軍の

執権因幡守大江、應元の後胤毛利元就と睦久、永録
年中、戦の時一叫、山中、衆之と與力し、武切を顯は
しける。お尼子の軍利あり、敗亡の後、殘軍の士多
く毛利家に降る。一叫、二君は、侍ると恥ぢて、名を伏
せ、み跡を隠し、出家遁世の者となり。禪家より諸
山の明師は、冬、曆す月、山居士と改号し、中玉を呼ぶ。坂
東より下る、而も同姓喜時并より者あり。則ち一叫、徒
弟なり。當お尼子亡却の後、一叫の隱遁をすまを悔
み、に堪はず。這は跡を尋ひて、攝州、尼子時の侍村より